

BUDŌ NEWS

今月のニュース

昭和 100 年記念

第 8 回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー



注目ニュース

第48回全国高等学校柔道選手権大会 高校生たちが熱戦繰り広げる



第48回全国高等学校柔道選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）が3月27・28日、日本武道館で開催された。
大会は1日目に個人戦、2日目に団体戦が行われ、高校生たちの王座をかけた戦いが2日間にわたり繰り広げられた。
※詳細は、今月のニュース（90ページ）をご覧ください。

2日目（28日）に行われた団体戦の様子

外国人留学生らが 武道への理解を深める



昭和100年記念第8回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー（主催Ⅱ日本武道館、後援Ⅱスポーツ庁、外務省、勝浦市、日本武道協議会、協力Ⅱ国際武道大学）が3月6日から8日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催された。

本セミナーは、我が国へ留学中の外国人留学生および在日大使館などに勤務する外国人を対象に、日本の伝統文化である武道の歴史・理論・技術についての講義と実技、また、現代武道9種目の体験セミナーを行い、武道の国際的理解と発展に資するとともに、武道を通じて国際友好親善に寄与することを目的としている。

今回は、アジア・ヨーロッパを中心に24の国と地域から59名の参加があり、参加者は本セミナーを通して武道の奥深さを堪能した。

初日の開講式では、主催者として片岡正徳日本武道館常任理事・事務局長が挨拶を行った。次に講師・通訳者などの紹介を挟み、講師が模範演武を披露した。参加者は真剣な眼

昭和 100 年記念

第8回外国人留学生等対象国際武道文化セミナー



参加者が相撲の塵手水（ちりちようず）を体験



閉講式に移り、端春彦日本武道館振興部副参事兼振興課長から参加者代表のルーシー・アトキンスさん（イギリス）に参加証が手渡された。最後に篠寄浩之同振興部長が主催者挨拶を行い、全日程が終了した。

朗特別講師（國學院大學名誉教授）による「武道の教えは『争われない』こと」の講義が開かれた。

差^さしで演武者の息遣い、所作にわたるまで丁寧に見ており、武道への興味の高さが垣間見えた。その後、各班に分かれて体験武道に移った。
2日目には、平井正修^{しょうしゅう}特別講師（全生庵住職）による「武道と禅」の講義と座禅の実技が行われた。1日目に引き続き、体験武道も行われ、全9種目の体験が終了した。

3日目は、代表者による参加者意見発表が行われた。また、意見交換会も行われ、熱心にメモを取る参加者が多く見られた。その後、植原吉^{きち}



少林寺拳法



弓道

講師模範演武



なぎなた



空手道



合気道



銃剣道



柔道



剣道



模範演武に見入る参加者



相撲

【実技講師】

柔道 坂本道人（六段）、

越野忠則（七段）

剣道 井島章（範士八段）、

丸橋利夫（教士八段）

弓道 鈴木克己（教士八段）、

成田寿一（教士七段）

相撲 伊東良（五段）、

渡邊俊介（初段）

空手道 渡邊純一（教士七段）、

峯真太郎（教士七段）

合気道 入江嘉信（七段）、

日野皓正（六段）

少林拳法 高坂正治（准範士七段）、

加藤明（准範士六段）

なぎなた 高橋登子（教士）、

松井亮子（教士）

銃剣道 浦部聖二（教士八段）、

千葉隆（教士七段）

【実技助手】

相撲 橘龍生

合気道 セシナス アレクシ、

野中力樹、岡本大生、

伊藤ソフィアン大貴、

堤翔馬、村上普乃介

銃剣道 長谷川英昭、宍浦功二、

山口あや子、清水和香

講義(1)「武道と禅」



講義の様子



平井正修特別講師
(全生庵住職)



座禅体験で警策を受ける参加者



はじめに全生庵の紹介を行い、「武道と禅」の講義に移った。

平井特別講師は禅について、「禅は『ZEN』という言葉で世界中で通用するようになりました。ただ、その内容について、正しく理解されているかは難しいところです。禅は、仏教の一宗派で、古代インドに発生して中国に至り、中国から日本に伝わり、日本の気候風土、日本人の精神性や美意識と混ぜ合わさって、武道は言うに及ばず、茶道や華道といったあらゆる伝統的な日本文化の基礎となっているものです。そもそも座禅とは、静かに座って、自分で自分の心を落ち着かせる、という極めて精神的な自己訓練の方法です。それは私たちの日常生活において、知らず知らずのうちに心についてしまったさまざまな思い、他人に対する好き、嫌い、嫉妬、物や地位、権力に対する執着といった思いをすべて捨て去り、人間本来の裸の心、究極のシンプルな心に返ることです」と説いた。

さらに、「武道を含めた日本文化全体を木に例えるなら、禅は木の根つこのようなものです。外から見る

ことはできませんが、そのすべてを支えているものです。それは言葉にも表されています。剣道、柔道、華道といった具合です。この道という言葉こそが、私たちの心で大切なところですよ。昔から、『禅とは心の名なり』という言葉があります」と、禅は日本人にとって精神的な土台であることを伝えた。

●座禅体験

参加者は、平井特別講師の指導のもと、警策きやうさくの受け方、座禅の座り方けっかふざ（結跏趺坐・半跏趺坐）、心の整え方などの説明を受けた。その後、実際に座禅体験を10分間行なった。

質疑応答

Q 1. どのくらいの時間、座禅をされますか。

A 1. 修行道場にいる時は、4、5時間座禅をします。30分から40分を一区切りに繰り返します。

Q 2. 座禅をすると途中で足の血が止まってしまうように感じました。

A 2. 座禅に慣れる体をつくるのが大切です。

講義(2)「武道の教えは『争わない』こと」



植原吉朗特別講師
(國學院大學名誉教授)



講義に熱心に耳を傾ける参加者



スライドを使って講義を行った

●講義の概要

・「武」の意味と精神性

「武」という漢字は、「戈^ゴを止める」、すなわち「武器を使わない、争わない」を意味するという解釈があります。時代を経て次第に無意味な殺傷から離れ、鍛錬の過程で精神も鍛えまた先人の智を学ぶことが、その時代を生きる武士の要件となりました。

・闘争の技術から「道」への変遷

「武道」の原初は人殺しのテクニクですが、平和な時代となつてからは、武士はその技を磨くための鍛錬を通して人格の陶冶^{トウイ}を目指す「道（人としての生き方）」を重んじるようになります。「武」の意味は、むしろ争わずに自身の能力・強みをよくよく活用していくことであると、解釈されるようになりました。これは、「柔道」を創始した嘉納治五郎が唱えた「精力善用、自他共栄」の教えに繋がっていきます。

・人の本当の強さとは

武道で求められる「強さ」とは、争わない、争いを避ける、争うことを必要としない「平常心」ではないかと思ひます。

本当の意味で心と身体が強くなれば、もはや誰とも争う必要がないのです。強いからこそむしろ他者に優しくなれる、したがって本当に強い人は、優しい人であるはずです。

武道における「稽古」は、互いに尊重し共に協力し高め合う関係を構築してくれます。

・師弟同行

「打つて反省、打たれて感謝」「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」と剣道では言われます。

剣道では、稽古で相手を打つことも打たれることも、自身の成長を促してくれます。したがって、生徒だけでなく、打たせて生徒を導く指導者も稽古を通して共に成長することができます。

武道の精神性を理解する外国人も増え、現代では国境を越えて共に稽古に励む機会が多くなりました。武道で導かれ磨かれる「争わないこと」を備えた人間性は、世界を平和にする礎にもなりうる可能性をも秘めているのではないかと、私は考えています。



体験武道





参加者の声

・豊かな経験をさせていただきました。武道を楽しく理解することができました。(スペイン・男性)

・アーチェリーを経験しており、弓道が一番楽しかったです。的に矢が中つて嬉しかったです。(台湾・男性)

・柔道を体験して、自分の体のバランスを取るのが難しかったです。技を掛けた時に、相手の安全を思いやることも興味深いです。(インドネシア・男性)

・昔、松濤館の空手をやっていました。今回の体験を通して、昔に戻った気持ちになりました。(ポーランド・男性)

・合気道の動きは難しかったですが、体が温まりました。(モンゴル・女性)

・相撲の動きに興味があることや歴史を学ぶことができて楽しかったです。

(中国・女性)

参加者意見発表

●アレクサンダー・マシユーズさん
(イギリス)

「私の出身地には、トヨタなどの日系企業があり、子どもの頃から日本の文化に興味がありました。日系企業のおかげで、子どもの時に日本の方と仲良くなることができました。日本人の友達が武道などの日本文化を教えてくださいましたので、日本で仕事をすることを夢見てきました。私には外交官として、両国関係に対する責任があります。そのために、武道などの日本の尊い文化を学ぶべきだと思っています。今回のセミナーのおかげで多くのことを学ぶことができました。武道の技術だけでなく、精神や規律も学ぶことができました」

●イルハミラ・ピンチイカムシムさん
(マレーシア)

「マレーシアにも武術があり虎などの動きを真似したものです。私はマレーシアでアーチェリーをやっていたので、弓道が一番楽しかったです」

●サロメ・オソリオさん
(コスタリカ)

「子どもの頃の夢で、日本に来たら、弓道をやってみたいと思っていました。今回のセミナーに参加することで、夢が叶いました」



閉講式で代表者に参加証が手渡された



初日には懇親会が開かれ
鈴木克己講師（弓道）が乾杯の発声を行った



講師、参加者で記念撮影

第48回全国高等学校柔道選手権大会

男子
団体

崇徳(広島)が悲願の初優勝



男子団体決勝・中堅戦＝崇徳・川口（左）が塗木の背負投を返して有効を取る

第48回全国高等学校柔道選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）が3月27・28日、日本武道館で開催された。

男子団体では、崇徳（広島）が大牟田（福岡）を決勝で下し、大会初優勝に輝いた。女子団体では、比叡山（滋賀）が富士学苑（山梨）との決勝を制し、2年ぶりの王座奪還を果たした。

男子個人73kg級では、1年生の藤中元氣（大阪・上宮）が初出場で優勝を果たした。女子個人無差別級では前回大会3位の林桃（滋賀・比叡山）が初優勝に輝いた。

◆団体戦（28日）

●男子
■決勝

崇徳（広島）	2-0	大牟田（福岡）
阿部桜大	引分	河原悠斗
奥田耕平	引分	矢野道太郎
川口陽生	有効	塗木達人
米澤直良	引分	塩山晴生
小田将之介	合技	茂木明輝

初優勝を目指す崇徳と前回大会3位の大牟田の顔合わせ。



男子団体決勝・大将戦＝崇徳・小田（上）が技ありを奪う

先鋒・次鋒戦とともに引分で終えてむかえた中堅戦。崇徳・川口と大牟田・塗木の一戦は、試合開始1分10秒に、塗木が背負投を仕掛けたところを川口が返し、有効を先取する。追いつきたい塗木は、内股などを積極的に仕掛けていくも、決定打に欠き試合は終了。川口が崇徳に貴重な一勝をもたらした。続く副将戦は引分に終わり、崇徳・小田と大牟田・茂木の大将戦へ。試合が動いた

のは開始1分5秒、小田が鮮やかな背負投を決めて技ありを奪う。追い詰められた茂木は果敢に攻めるも、ポイントを取れずに時間が経過していく。そして残り時間25秒、小田が再び技ありを決めて合技一本で試合終了。崇徳が悲願の初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ崇徳・加美富章監督

「長年監督をやってきてこの大会で優勝することを目指してきたので、夢みたいな気持ちでいっぱいです。決勝は中堅の川口が力を発揮して有効を取ってくれたことが大きかったと思います。大将の小田は、組み際の強さを持っている選手なのでこういった展開もありえると思っていました。金鷲旗とインターハイでも優勝して3冠を目指していきたいと思っています」

○女子

■決勝

比叡山（滋賀）	1-0	富士学苑（山梨）
竹原萌菜	引分	朝田 杏
森田七海	○一本	前田桃空
坂本四葉	引分	勝又美涼

前回大会準優勝の比叡山と前回大会

会3位の富士学苑の一戦。

先鋒戦を引分で終えてむかえた中堅戦。比叡山・森田と富士学苑・前田の対戦は、試合中盤に森田が大内刈で見せ場をつくるも、ポイントを取るにはいたらない。勝敗を分けたのは残り時間10秒、前田が背負投を打つと森田が耐え、体勢を崩した前田から森田が上四方固の形に持つていき抑え込む。そのまま前田は返すことができず、森田が一本勝ち。その後の大将戦は引分に終わり、比叡山が2年ぶりに王座に返り咲いた。

◎優勝Ⅱ比叡山・米富和郎監督

「ほっとした気持ちと、やってきたことが報われた気持ちで最高に嬉しかったです。決勝は中堅の森田が最後の最後に勝負強さを見せてくれたのが大きな勝因になりました。前日の個人戦の疲れがある中で、出場した選手全員が各試合で活躍してくれて、比叡山らしいしぶとく執念を持った戦いが最後までできたと思います。この大会の経験を生かして、金鷲旗、インターハイと3冠を目指してがんばります」



女子団体決勝・中堅戦＝比叡山・森田（右）が大内刈を仕掛ける

◆個人戦(27日)

○男子

▽60kg級

決勝は昨年のインターハイ覇者の古賀龍之介(福岡・南筑)と田代大地(宮崎・日章学園)の顔合わせ。試合は、古賀が開始1分10秒に崩袈袈固を決めて一本勝ち。圧巻の強さで初優勝を果たした。



男子個人 60kg級・決勝＝古賀(上)が崩袈袈固で一本勝ち

▽66kg級

決勝は杉野良磨(千葉・千葉経済大附)と木原誠登(神奈川・東海大相模)の一戦。GSまでもつれた試合は杉野が内股巻込を決めて技ありで決着。初優勝に輝いた。

▽73kg級

決勝は藤中元氣(大阪・上宮)と福井大心(兵庫・報徳学園)の対戦。試合は藤中が開始1分30秒に、横四方固で一本勝ち。1年生の藤中が王

座に輝いた。

▽81kg級

吉田征矢(愛知・大成)と河原悠斗(福岡・大牟田)が決勝に進出。試合は、吉田が試合序盤に有効で先取する。前に出る河原に対し、吉田が付け入る隙を与えず試合は終了。吉田が初優勝を果たした。

▽無差別級

決勝は松林清将(神奈川・東海大相模)と照喜名幸雅(沖縄・沖縄尚



女子個人 52kg級・決勝＝白金(上)が袖釣込腰で技ありを奪取

学)の一戦。両者攻めあぐねポイントが動かないまま時間が経過。むかえた残り時間10秒、松林が払巻込で有効を取ると、そのまま横四方固で抑え込み一本勝ちを収め、初の栄冠を手にした。

○女子

▽48kg級

決勝は富田伊央莉(広島・広島皆実)と竹原萌菜(滋賀・比叡山)の昨年のインターハイ決勝と同じ顔合わせ。試合時間残り50秒、富田が背負投で技ありを奪うと、そのまま横四方固で抑え込んで合技一本勝ちを収め、インターハイに続き優勝を果たした。

▽52kg級

決勝は白金里桜(岡山・創志学園)と朝田杏(山梨・富士学苑)の一戦。試合は本戦で決着つかず、GSに突入。GS4分45秒、白金が袖釣込腰で技ありを決めて試合終了。試合時間計7分45秒の戦いを白金が制した。

▽57kg級

決勝には北島侑紗(神奈川・桐蔭学園)と帯金柚良(静岡・藤枝順心)が進出。試合は終盤に北島が内股で



女子個人無差別級・決勝＝林（下）が大内返で激闘を制する

有効を獲得して勝利を収め、初優勝に輝いた。

▽63 kg級

決勝はここまで全ての試合を一本勝ちで勝ち上がってきた小松愛南（東京・修徳）と森田七海（滋賀・比叡山）の一戦。試合中盤、小松が足車で有効を先取る。その後、森田も果敢に技を仕掛けるも、ポイントを奪えず試合は終了。小松が昨年のインターハイで敗れた森田にリベンジを果たし、初の栄冠を手にした。

▽無差別級

決勝は前回大会3位の林桃（滋賀・比叡山）と前回大会準優勝の勝

又美涼（山梨・富士学苑）の顔合わせ。試合は本戦で両者ポイントを奪えずGSにもつれる。勝又が積極的仕掛けののに対し、林が持ち堪える展開が続く。むかえたGS4分26秒、仕掛けてきた勝又に対し、林が大内返で有効を奪い、試合終了。林が激闘を制し、初優勝を果たした。



【大会結果】

○男子団体Ⅱ①崇徳（広島）②大牟田（福岡）③大成（愛知）、国士舘（東京）

○女子団体Ⅱ①比叡山（滋賀）②富士学苑（山梨）③福井工大福井（福井）、

埼玉栄（埼玉）

○男子個人

▽60 kg級Ⅱ①古賀龍之介（福岡・南筑）②田代大地（宮崎・日章学園）

③寶神陽（佐賀・佐賀商業）、泉奏衣（千葉・東海大浦安）

▽66 kg級Ⅱ①杉野良磨（千葉・千葉経済大附）②木原誠登（神奈川・東海大相模）

③柴崎皇輝（東京・足立学園）、茶園實人（佐賀・佐賀商業）

▽73 kg級Ⅱ①藤中元氣（大阪・上宮）②福井大心（兵庫・報徳学園）

③塩山晴生（福岡・大牟田）、饒平名祥太（埼玉・埼玉栄）

▽81 kg級Ⅱ①吉田征矢（愛知・大成）②河原悠斗（福岡・大牟田）

③梅津的居（山形・山形工業）、梅野幸軌（東京・早稲田実業）

▽無差別級Ⅱ①松林清将（神奈川・東海大相模）②照喜名幸雅（沖縄・沖縄尚学）

③長野慎大（東京・国士舘）、渡邊空河（熊本・東海大熊本星翔）

○女子個人

▽48 kg級Ⅱ①富田伊央莉（広島・広島皆実）②竹原萌菜（滋賀・比叡山）

③植田ころこ（宮崎・宮崎日大）、稲田三彩（福岡・大牟田）

▽52 kg級Ⅱ①白金里桜（岡山・創志学園）②朝田杏（山梨・富士学苑）

③土肥愛海（愛知・FC今治）、大藪千夏（京都・立命館宇治）

▽57 kg級Ⅱ①北島侑紗（神奈川・桐蔭学園）②帯金柚良（静岡・藤枝順心）

③池内涼樺（徳島・生光学園）、夏坂珠代（北海道・北海）

▽63 kg級Ⅱ①小松愛南（東京・修徳）②森田七海（滋賀・比叡山）

③相場さつき（埼玉・埼玉栄）、松岡花樹（佐賀・佐賀商業）

▽無差別級Ⅱ①林桃（滋賀・比叡山）②勝又美涼（山梨・富士学苑）

③藤本春栞（佐賀・佐賀商業）、岡田花音（福井・福井工大福井）



天地拳第一系の練習をする参加者ら

少林寺拳法の修練を取り入れた 新入社員研修を実施

少林寺拳法連盟「2026年度新入社員研修」受け入れ

少林寺拳法連盟は地域企業の新入社員研修を受け入れており、本年度は4月7～16日の期間に3社が連盟本部（香川県多度津町）での研修に参加した。研修会に参加した新入社員は、声出しや団体行動訓練、少林寺拳法の技法（基本動作、法形）の練習に積極的に取り組んだ。

本年度参加した株式会社石垣（7日）、株式会社百十四銀行（8・9日）、四国旅客鉄道（13～16日）のうち、本稿では8日に行われた株式会社百十四銀行の研修の様子を紹介する。

少林寺拳法連盟では、少林寺拳法が掲げる「人づくり」の精神に則り、連盟が本部を置く香川県内の企業の新入社員研修を受けている。研修会は参加者らに社会人として必要な主体性や協調性などを身につけてもらうことを目的として、声出し、団体行動（整列、歩調訓練）などに加え、少林寺拳法の基本動作や法形の練習がプログラムに含まれており、研修の最後には団体行動の発表が行われる。



午前9時半に株式会社百十四銀行の新入行員47名が連盟本部内の錬成道場に到着。研修に先立ち、オリエンテーションとして、志村力少林寺拳法連盟職員が研修の目的や日程の説明、運営スタッフの紹介などを行った。

オリエンテーション後はすぐに研

修に移り、中井弘佑少林寺拳法連盟指導・普及課職員の指揮のもと基本・団体行動訓練が行われた。参加者らは6、7名の班に分かれ、はじめに基本の声出し訓練を兼ねて班内での自己紹介を行った。開始直後は緊張と気恥ずかしさから小さな声で自己紹介を行っていたが、運営スタッフの鼓舞のもと練習を繰り返すことによって、徐々にしつかりとした発声で自己紹介や返事を行えるようになった。

続いて団体行動の整列と歩調訓練に移った。各班長の号令に従って素早く整列をする訓練、班全員で掛け声を合わせて行進する歩調訓練が約40分間にわたって行われた。声出し訓練で緊張と気恥ずかしさを克服し始めた参加者らは、班ごとにハキハキとした態度と声で訓練に取り組

表 新入社員研修進行表

時間	内容
9:30	本部到着
10:00	振興普及部長挨拶
10:05 ～ 10:35	オリエンテーション ・運営スタッフ紹介 ・少林寺拳法の概要 ・日程説明 ・研修会目的と諸注意 ・班編成（班長決定） ・発表の手順 ・鎮魂行（説明も兼ねる）
10:45 ～ 11:45	基本・団体行動訓練 ・整列訓練 ・声出し訓練 ・全体歩調訓練
11:45	昼食
12:45 ～ 13:15	講義 テーマ 「社会人として、どんな人？」
13:20 ～ 14:10	基本・法形練習 ・突、蹴、受方 ・天地拳第一形
14:20 ～ 15:20	団体行動訓練 発表練習
15:20 ～ 15:25	発表、講評
15:30	クロージング ・作務 ・座禅 ・受講者代表お礼 ・振興普及部長まとめ
16:00	本部出発



志村力
少林寺拳法連盟職員



中井弘佑
少林寺拳法連盟
指導・普及課職員



谷聡士
少林寺拳法連盟
振興普及部長



少林寺拳法特有の礼法「合掌礼」を学ぶ参加者

み、中には汗を滲ませる者も見受けられた。

昼食を挟み午後は座学の講義から始まり、谷聡士少林寺拳法連盟振興普及部長によるスライドを用いた講義が行われた。講義の中で各部長は組織で働く上で求められる振る舞いや生じる義務、社会人としてあるべき姿について述べた。

続いて少林寺拳法の法形の練習が行われ、志村職員の指導のもと天地拳第一系の動きを学んだ。参加者の大多数が少林寺拳法に触れるのは初めてであったが、動きを覚えるために、全員が志村職員の動きを真剣な眼差しで見学していた。その後は、班内外で参加者同士が動きを教え合う場面が見受けられ、協調性が高ま

っている様子が見受けられた。

研修会のゴールである団体行動の発表に向け、班ごとに1時間の練習時間が設けられた。班内で積極的に意見交換や互いの動きを確認し合い、発表に備えた。その後、団体行動発表が始まると各班は訓練の成果を十分に発揮し、発表を終えた参加者らは達成感と安堵で相好を崩した。

審査員には宗大雄 SHORINJI KEMPO UNITY 専務理事が臨席し、全班的発表終了後に「仕事をしていく上で個人としての力は重要ですが個人主義は必ず限界があります。今回学んだ団体での力を忘れずに新しい環境で仲間とともに頑張ってください」と講評を述べ、参加者を激励した。また、同じく臨席した井上弘少林寺拳法連盟理事は「命は時間である」と前置きし、「自分の時間をお客さまのためにしっかりと使わなければ、と考えることが社会人として大切なことです」と述べた。

最後に作務として全員で会場の清掃を行い、研修の全日程が終了した。



志村職員による天地拳第一系の解説



中井職員による団体行動訓練の説明



発表に備えて各班で動きの確認を入念に行う



基本・団体行動訓練



谷部長によるスライドショーを用いた講義

講義



昼食も班ごとにまとまって食べる

昼食



一班ずつ一日の練習の成果を発表。発表班だけでなく見学者も全員が真剣な態度で臨んだ



発表

●参加者の感想

▼十川裕斗さん



「団体行動などの訓練を通して積極性や協力する力を身につけて、朝の参加時点とは別人になったような気分です。これから仕事をしていく中で、自分の行動や考え方がまた徐々に確かなものになっていくのかなと思います。今日学んだ挨拶は、早速明日から心がけていきます」

▼林美夢さん



「学生気分から身も心も切り替えることができたと思います。研修の最初の方は、何か行動を起こすたびに不安を感じていたのですが、最後は自信を持って行動できるようになりました。これから仕事をしていく上では仲間意識をしつかり持つて取り組んでいきたいと思っています」

▼株百十四銀行

人事部人事開発グループ長

佐野卓史氏



「午前中の新入社員の後ろ姿はどこか頼りなく感じていたのが、午後にはとても立派になっていて感動すら覚えました。この研修会は、現在働いている行員も経験しており、新入行員が先輩行員とコミュニケーションをとる一つのきっかけにもなっているの、これからも参加し続けたいと考えています」



研修の会場となった少林寺拳法連盟本部

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保本輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



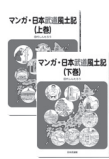
柔道 その歴史と技法 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長廣の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る良書の一冊。



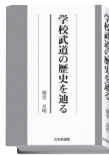
マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

